



郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2023年12月1日

12月号

校長 安倍 武雄

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

先生ではない先生

運動会が終わってひと月余りたったところで、「教室で教師と子どもが」というだけでない授業があちらこちらで見られます。

毎年5年生が取り組んでいる、「田んぼ塾」(5年)では青空の下、稲刈りが行われました。農家の皆さんに直接ご指導いただきながら、刈り取りはもちろん、稲を藁でしばったり、竿にかけて干したりしました。初めは苦戦していた子どもたちもだんだんと手捌きもよくなり、収穫の喜びを感じていたようです。乾燥後脱穀、粃摺りをしていただき、こんなにたくさんのお米が収穫できました。自分たちの植えたあの数本の苗がこんなにもたくさんのお米になるなんて想像もできなかったことでしょう。これらをご飯としていただくことはもちろん、それ以外をどう活用していくか子どもたちの学びは続いていきます。



また、別の日には県の教育指導員(5年)、NPOの講師(6年)をお招きして、ネットリテラシーの講演をしていただきました。何気なく使った言葉が相手を傷つけてしまうこと、たとえば「よくない」では、「これっていいよね?」と同意を得ようとしたつもりが、「ダメだ」と断定しているように聞こえてしまうことや、「モデル募集」の甘い言葉に誘われ、個人情報抜き取られるだけでなく次々に怖い目に合う話などネットに潜む影の部分伝えていただきました。子どもたちは、「言葉を大切にしたい」「うまい話に乗ってはいけない」など、自分の生活に引き寄せて考えることができました。



彼岸花の季節には、小出川沿いをお散歩しながら秋を見つける1・2年生、消防署に見学に行くと「消防服着せてもらった!」と大喜びの3年生、音楽会で文化会館大ホールという大舞台上で素敵な歌声を響かせてくれる4年生と、本物にふれることができた秋でした。本物からしか学べないことがありますね。私たちはこれからも、こんな学びを探し続けたいと思います。

11月11日(土)に、推進協主催の「郷の子フェスティバル」が開催されました。薄日が差すちょっと寒い日でしたが、事前に申し込みをしていた多くの子どもたちが参加をしました。体育館ではアイロンビーズ、輪投げ、指紋採取体験、ポッチャの4種目を入れ替え制で楽しみました。特に指紋採取体験では、西久保の駐在さんをはじめ各地の駐在さんがお越しいただいて子どもたちのために、その技術を伝えていただきました。素敵な時間をつくっていただいた推進協と茅ヶ崎警察署の皆さん、ありがとうございました。

